

外国語を勉強すること

加藤 佳奈子

学校生活も2ヶ月が経ちました。生活のサイクルもだんだん決まってきて、流れるように日々が過ぎていく気がします。

さて、2ヶ月中国語を勉強してきましたが、ここにきて、どうやったら中国語を効率的に学べるんだろうかということを考えています。言語能力は読む・書く・聞く・話す、の4つに分けられると思いますが、学校の授業で特に強化されるのは読む力と聞く力、つまりインプットの部分です。言語習得順序としても、インプット→アウトプットという傾向なのでまずインプット、というのはまったく自然な流れだとは思いますが、集団授業ということもあり、書く力と話す力、つまりアウトプットの能力がどうしてもおきざりにされてしまいます。1年という限られた時間の中でアウトプットの力をつけるためには、

- ① 語彙を増やす
- ② 文法を意識して話す
- ③ 中国人が普段使う言葉を意識して使う
- ④ ①②③を自然に言えるようになるまで繰り返す

という以上四つのことを意識的にする必要があると考えています。

インプットがないともちろんアウトプットのしようもないのですが、言語のインプット能力とアウトプット能力はまったくの別物だということも、強く感じることのひとつです。例えるなら、夏目漱石の写真をみれば誰でもあの千円札の夏目漱石だとわかりますが、では写真を見ずに夏目漱石の似顔絵を描けといわれると、実際に練習もせずに描ける人はそういない、というところではないでしょうか。つまりアウトプットをするためにはインプットされた情報を注意深く観察し、忠実に再現できるように練習をする必要があります。インプットより、さらに時間と労力をさかなくてははいけません。

中国人に言語習得のコツを聞くと、「多説(ドウオシュオ:たくさんしゃべりましょう)」と言われます。まさにこの「多説」がアウトプットのまたとなない機会だということはわかっているのですが、中国人と自然に喋れるようになるにはまだまだずいぶん時間がかかりますし、あまりに通じない言葉の壁に挫折しそうになることもあります。そんな時に有効(だと思う)なのが、中国語

を自然に話しているようなフリをする、ということです。知ったかぶりをして
いるだけ、と言われそうですが、フリをするだけでも話を比較的スムーズに進
めることができますし、自分の自信にもなると思います。中国語を自然に話し
ているフリをするコツは、

- ① 中国人がよく使う短いフレーズを中国人が使うようなタイミングで
真似して言う
- ② 日本語でよく使うフレーズを中国語で言う

現地の人々が生まれてから毎日、数十年かけて使っているような言葉を1年
たらずでマスターしよう、というのがそもそも無謀なのですが、言葉が通じる
驚きや、気持ちを伝える楽しさはなにごとにも変えがたい喜びだと思ひます。
これからも日々の成長を期待しつつ中国語の勉強を続けていきたいと思ひます。



太原の寒い季節によく食べられている
羊肉が入った麺とサクサクしたパン



拉麺（ひっぱって作る麺）の名前のとおり、
このひっぱる作業を何度も繰り返して細い麺をつくります